事業名：総合的な学習の時間モデル事業

学校名：広島市立井原小学校

所在地：広島市安佐北区白木町井原

ＨＰ： http://www.ibara-e.edu.city.hiroshima.jp

学級： ５学級 ４３名

1 研究の概要

（1）研究テーマ及び研究のねらい

① 研究テーマ

コミュニケーション能力を育成する英語活動の創造

② 研究のねらい

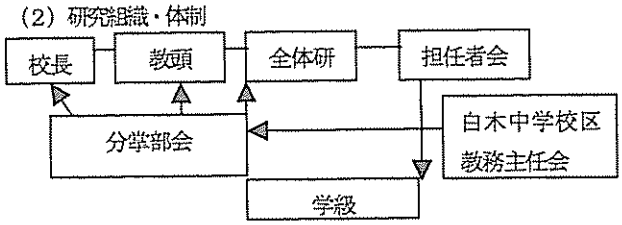
本校では，これまで英語活動に取り組んできた。実施当初，そのねらいは，ＡＬＴのネイティブな英語によって，英語に慣れ親しませるものであった。そのため，ゲームや歌などを活動の中心にし，それらの活動を通して，ＡＬＴの先生の話す英語に親しむものであった。

しかし，活動を重ねるにつれて児童のニーズが高まってきたため，それまでは全校一斉に学習していたものを，低学年と高学年の２グループに分け，さらには各学年に分かれて活動するなど，学年の実態に応じて学習形態を改善する必要がでてきた。

そこで本校では，児童が英語をツールにして，いろいろな国の人たちと臆さずにコミュニケーションを図ることができるようにするため，上記の研究テーマを設定した。

研究に当たり，本校では，英語によるコミュニケーション能力を育成するために特に必要な力を「自己表現への意欲」及び「聞く」「話す」能力を育成すべき主な力と位置付けた。

（2）研究組織・体制



（3）研究内容

①ＨＲＴとＡＬＴによる英語活動計画の立案

英語活動の実施にあたっては，年度当初に作成した年間指導計画をもとに，児童の興味・関心等の実態を考慮し，ＨＲＴとＡＬＴのミーティングにより活動内容を決定する。

②「聞く」「話す」活動の充実

英語活動の時間は，英語によるコミュニケーション活動の時間と位置付け，この時間は児童の発達段階を配慮しながらも日本語を使用しないようにする。

題材は，各教科の内容や地域の学習材と関連付け，学習意欲や表現意欲を高める工夫をする。

また一時間の授業を，フォニックスや語彙の習得等を目的とする言葉の学習と，ＡＬＴや友だちとのコミュニケーションの学習の二つで位置付けていく。

【英語活動によってつけたい力と検証の方法】

① 異文化に対する興味・関心

毎年度ごとの英語活動についてのアンケート等により「興味・関心」を評価し，検証する。

② 自己表現への意欲

外国の方へのインタビュー等，具体的なコミュニケーション場面での「表現力・意欲」を評価し，検証する。

③ 「話す」「聞く」能力

授業で用いる簡単な生活場面のシナリオによる会話力で，「聞く」こと「話す」ことを評価し，検証する。

2 授業改善の視点

○ 表現活動としての英語活動に児童が興味を持って取り組めるように，題材，活動方法を工夫する。

・ 学習したことを生かし，実際に外国の方々にインタビューをするなど，日常の英語活動と結びつけた発展的な体験活動を設定する。

○ 自己表現が自信を持ってできるように，会話シナリオのバリエーションを増やし，反復させたり変化(応用)させたりする授業展開を工夫する。

・ 低学年では，ゲームや歌を中心に楽しく動きのある授業。中学年では，これまでのゲームを中心とした授業から，ＡＬＴの先生とのコミュニケーションをより多く取り入れた授業への転換。高学年では，これまで学習してきたことをもとに，オールイングリッシュによる授業の展開。

3 研究の成果と課題等

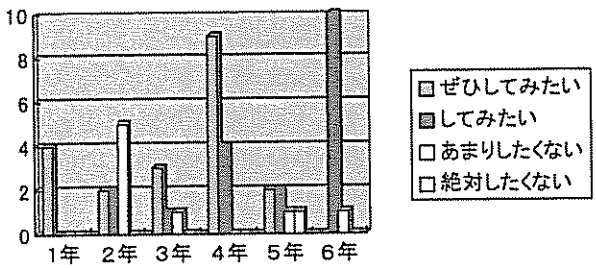
（1）成果

○ 全校児童を対象とした英語活動に係るアンケートの結果によると，全員の児童が「英語活動が好き」または「どちらかといえば好き」と答えている。

また「チャンスがあれば，外国の人と話がしてみたいか」の問いに対しても，２年生の児童を除いたほとんどの児童が肯定的な回答をしている。

また，授業後の感想にも，英語活動に対する関心や意欲の変容が見られるようになってきており，「自己表現への意欲」は高まってきていると考えられる。

チャンスがあれば，外国の人と話がしてみたいですか。



授業の感想：私は，最初英語は必要ないと思っていました。だって日本人だし。でも，ちょっと目をこらしてみると日本には，外国の人が多く行き来するところが見えました。英語を身に付けておけば，沢山の人と会話ができると思いました。今後の社会を考えてみると，これは大切なことです。英語は，もくもくと学ぶのではなく，思い切りくだけて，挑戦するものだと思いました。「あたってくだけろ」という言葉があるように，やるのなら思い切り肌で感じ，楽しみながら学びたいと思いました。

○ ＡＬＴによる自然でネィティブな英語に定期的に触れることで，英語を聞く耳が育ってきている。
　また，英語に対する抵抗感が上学年になるほど薄れ，日常的な会話であればできるようになった。

○ ＨＲＴとＡＬＴが英語活動計画を立案することにより，授業場面での役割分担が明確になり，ＴＴによる授業が進められるようになった。

（2）課題及び改善方策

① 全児童が英語活動を肯定的にとらえているものの，表現への意欲については，実態の差が見受けられる。今後は，使える会話のバリエーションを増やし，英語が「使えた」，英語で「通じた」，英語による「コミュニケーションができた」という体験の積み重ねによって表現への意欲を高めていく必要がある。

② 児童の「聞く」「話す」能力は，高まっているものの一人一人の能力がどのように高まってきたかの把握が不十分であった。今後は，授業での「聞く」「話す」に係る評価の規準を検討するとともに，評価の判断基準としてのルーブリックについて検討していく。

③ 小中の連携を視野に，確かな英語力の定着と，明確な到達点の確立を目指したい。

4 実践事例

(1)学　年　6年生

(2)題材名　word game , actual interview

○目　標

・活動を通してコミュニケーションの楽しさを味わう。

・友達，先生と英語の会話を交わしたりすることを楽しむ。

・英語学習を通して，日本や外国のことに興味を持つことができる。

○展開

1．あいさつ

2．Today's feelings
　今日の気分を言い，次の児童に今日の気分を聞く。

3．Let's read the alphabet.
　アルファベットのカードをシャッフルし，出たアルファベットから始まる，単語を発表する。

4．Word game
　Do you know this country?
　複数の英単語から，連想する国名，県名を発表する。

5．Let's talk about last September 11.
　9月11日の平和公園でのインタビューの感想を，できる限りの英語で発表する。

6．Actual interview and map searching.

7．Let's visit Miyajima next time.　And try your very best.

(3)授業改善のポイント

①指導方法の工夫

教師の見本だけでなく，表情やボディーアクションにより豊かに表現した児童を評価し，英語を用いて表現する意欲を高める。

アイコンタクトの取り方，表情の有無など，児童の非言語によるコミュニケーションの仕方を見取りながら，コミュニケーションの仕方の視覚化を図る。

②活動について

「Let's read the alphabet」「Word game」の活動において，ゲーム感覚の楽しい雰囲気の中で，語彙を豊かにし，一人一人が必然的に「聞く」，「話す」場面を設定する。

(4)授業の様子

(5)成果と課題

平和公園での直接交流経験を題材として位置付け，授業を組み立てたことで，意欲的に学習することができた。児童にとっては，日々の英語活動が，「外国の方との英語による直接交流に役立った」，自分の英語が外国の方に伝わることにより，「話すことは楽しいこと」という実感を持たせることができた。

今後，児童の興味・関心を，向上，持続させるために教材，教具の充実を図る。